

## 令和5年度 枚方市立樟葉西小学校 学校経営方針

### 1. 教育目標

「自立・協働・創造」

～学びあい、つながりあい、「ともに生きる」よりよい未来へ～

令和3年度以来、新型コロナウイルス感染症予防対策で制約に明け暮れる毎日だったが、日常生活の復調の兆しを感じる昨今である。引き続き日常的な感染症対策を講じるとともに、東南海地震や、世界の情勢不安等に対し、危機管理の目線で対応していく必要がある。

このような不安定な社会に対応できる「生きる力」を子どもたちが身に着けることができるような教育が必要不可欠であると考える。

新学習指導要領では「主体的で」「対話的な」「深い学び」が謳われている。その学び方は「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として行うことが必要であるとされている。

本校では、その点を具現化するために教育目標を「自立・協働・創造」と定めた。

子どもたちが将来「自立」し、自己実現を果たしながら、様々な人たちと「協働」し、「ともに生きる」ための社会を「創造」する基礎的な学力を向上させるため、国や、大阪府、枚方市の動向を見据え、新しい教育課題に即した授業改善に取り組み、全人的な教育活動を家庭とともに推進していく。

### 2. 教育方針

【チーム樟西】笑顔あふれるくず西キッズ

～学ぶ喜び・つながる喜び・創る喜び～

様々な教育課題に対し、教職員等の同僚性と学校組織マネジメントを推進し、学校チームとして、課題対応に取り組んでいく。

また、教職員だけではなく、コミュニティスクールとして、地域・保護者の皆様の願いや思いを大切にし、子どもたちの笑顔を守るため、協力し取り組んでいく。

### 3. 重点目標

(1) チームくず西としての組織的な取り組みの実践。

(2) 凡事徹底。あたりまえのことをあたりまえに。

「あいさつをする」「静かに話を聴く」「時間を守る」「教室環境を整える」など、あたりまえのことを継続して取り組む。

(3) 知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を培う

- ・人権意識の醸成
- ・運動習慣の定着
- ・学習規律の確立
- ・危機管理意識の育成

(4) ユニバーサルデザインを取り入れ、どの子にも学びやすい環境をつくる。

・学習の場にふさわしい環境(きれいな教室)、授業や場の構造化、わかりやすい指示、視覚

支援。

(5)新型コロナウイルス感染症への対応。

- ・自他の命、健康を守る指導。他と共に生きていく人権意識。アフターコロナをも対応できる取り組みの見直し。

#### 4. 令和5年度 重点課題

##### 1. 確かな学びと自立の力を育む教育の充実・教育環境の整備

###### ア)学校経営

- ・校長、教頭は校務全般にわたりリーダーシップを発揮し、学校経営方針を地域・職員と共有し、校内組織の活性化を図る。
- ・コミュニティスクールとして、家庭・地域と連携する。学校運営協議員による評価を学校運営に生かす。

###### ア)学習指導

- ・「算数科」を中心に校内研究を推進する。国語科研究で養った言語活動の充実も継続しながら、「自分の知識や技能を使って課題に取り組み、算数的な言葉を使って伝える力の育成」をテーマに位置づけ、授業力向上・授業改善を図る。
- ・学校図書館の整備を中学校の学校司書と連携することで推進し、各教科での学習活動に学校図書館の活用を位置づけ、児童の情報活用能力の育成や主体的な学習活動の支援を行う。
- ・学年会を活性化し、組織的な教員の授業力向上を目指し、相互参観や校長の授業観察を実施する。
- ・5C の視点を大切に「Hirakata 授業スタンダード」(第3ステージ)「樟西小 学力向上スタンダード」に基づいた授業改善(個別最適な学習と協働的な学びの一体的な充実)及び家庭学習の定着(シームレスな学びの充実)を図る。
- ・言語活動能力の向上を図るため、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。
- ・「枚方版 ICT 教育モデル」を活用しながら、タブレット端末等 ICT を活用した学習活動を充実させ、学力を育成する。また、新学習指導要領に基づき、プログラミング学習の充実を図る。
- ・夢や希望を持って学び続け、社会的経済的に自立し、よりよい社会を創ろうとする児童を育成するため、キャリアパスポートを活用し、キャリア教育の充実を図る。

##### 2. 豊かな心と健やかな体を育む教育・共に学び、共に育つ教育の推進

###### ア)道徳教育

- ・「道徳科」を要として学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。

###### イ)人権教育

- ・教育活動全体を通して、児童の自己肯定感・自己有用感を育み、想定外の事態や困難なことに出会っても、前向きに生きる態度の育成を図る。
- ・「枚方市人権教育基本方針」を踏まえ、人権尊重の精神に立ち、生命の尊さに気付かせ、お互いを大切にする態度や人格の育成を図る。

- ・女性・子ども・障害のあるもの・性的マイノリティに係る人権問題をはじめ、様々な人権問題の解決をめざした人権教育を推進する。
- ・各種のハラスメント等を防止し、個人の人格や尊厳を侵害するような言動を許さない教育を推進する。
- ・児童虐待の防止にあたり、SSW や SC との連携を図る。

#### ウ)健康教育

- ・食物アレルギー対応マニュアルを見直し、アナフィラキシーショックに対応した救急機関との連携を図る。
- ・「健康の3原則(調和の取れた食事、適切な運動、十分な休養・睡眠)」の指導を推進する。
- ・食に関する指導の充実を図るとともに、衛生管理の徹底、感染症、食中毒等の予防に努める。
- ・全国体力・運動能力調査の結果を分析し、活用する。

#### エ)特別活動

- ・主体的な学級活動を通じて、ともに高めあう人間関係の構築を推進する。
- ・児童の自主的な活動を促し、児童会活動の活性化を図る。
- ・儀式的行事においては、日常とは違う厳粛かつ清新な雰囲気の中で新しい生活の展開への動機づけになるような活動を行う。

#### オ)支援教育

- ・障害のある児童に対し、保護者や当該児童の意向を受け止め、ICT 機器を有効活用するなど合理的配慮の合意形成を行い、一人一人に配慮ができる支援教育に取り組む。
- ・支援教育コーディネーターを中心に校内組織体制を整備し、通級指導学級の充実を図る。その際に支援教育支援員や SSW サポーターを活用する。
- ・障害のある児童とまわりの子どもたちがともに学びともに育つ教育(インクルーシブ教育)の充実に努める。また、地域や保護者への支援教育の理解と啓発を推進する。
- ・支援が必要な児童の個別の指導計画及び教育支援計画を作成し、障害の状況に応じた適切な指導に活用し、引継ぎが確実に行われるようにする。

### 3. 教職員の資質と指導力の向上

#### ア)服務規律

- ・教育者としての使命を自覚し豊かな人間性を培うために、絶えず研修と修養に励む。
- ・児童に対する体罰や教職員間でのハラスメントなどの根絶、人権意識の向上を図る。

#### イ)教職員研修

- ・経験年数の少ない教職員の育成について、初任期担当教員を中心に OJT を基本とした日常の取り組みとミドルリーダーの育成に努める。
- ・校内研究推進体制を確立し、公開授業・研究協議会の実施等、校内研究の充実を図る。

#### ウ)業務改善

- ・教員の長時間勤務の縮減、同僚性を高めることに向けた取り組みを行う。

### 4. 学びのセーフティネット・地域連携の推進

## ア)安全教育

- ・登下校の安全指導、自転車の正しい乗り方や交通ルールの指導を徹底する。
- ・施設設備の安全点検を徹底し、事故の防止、安全・防災教育の充実を図る。
- ・枚方防災教育の日や大阪 880 万人訓練に合わせた実践的な避難訓練や、地震や火災・不審者などの防災・防犯教育を充実する。

## イ)児童支援

- ・基本的な生活習慣を身につけ、秩序ある学校生活を築く。
- ・子どもの人権を脅かすいじめや不登校の問題について教職員が日頃から児童の状況を把握し、適切な集団づくりに努める。事案発生に際しては、「学校いじめ基本方針」に基づき、早期対応に努め、生徒指導主体者を中心に、問題の解決に総力で取り組む。
- ・不登校へのきめ細やかな対応に加え、未然防止のための支援体制を構築し、中学校への連携を密にする。
- ・関係機関と連携し非行防止教室や薬物乱用防止教室を実施し、非行の防止と解決を図る。

## ウ)地域連携

- ・コミュニティスクール運営委員協議会を設置し、地域・保護者が学校運営への参画する体制を推進する。特に**本年度は開校 50 周年に当たることで、地域との連携を深める。**
- ・学校と家庭の相互理解を深め、信頼感の醸成に努める。
- ・学校便りに加え、学校 HP や学校ブログによる情報発信を行う。
- ・「学校教育自己診断」等を実施し、その結果を活用し、保護者・地域から信頼される学校をめざす。
- ・定期的に民生委員との連絡会議を持ち、校区の子どもたちを保護者・学校だけではなく地域の子どものとして、見守る体制を構築し、子どもたちが家庭や学校だけではなく地域の居場所を得ることができるよう、連携する。

## エ)異校種間連携

- ・樟葉西中学校区小中一貫教育推進事業を実施し義務教育 9 年間を見据えた取り組みを推進する。
- ・**幼保さ小連携を推進し、スムーズな小学校のスタートを目指す。**